

歴史的資源を活かしたまちづくり - 取組概要

経緯

「2030年の展望」では、人口減少・少子高齢化の進行や大交流時代の到来等の環境変化を踏まえ、地域資源を活かした取組を提示

H29・30県まちづくり審議会では、地方都市の魅力と活力の創出に向けて歴史的建造物を舞台としたまちづくりの推進の考え方を提示
 視点： 地域資源の活用 民間活力の導入 まちの基盤整備
 取組方策： 計画づくり まちづくり 基盤整備 に区分し地域の实情に応じ即地的に取り組めるよう、多様な取組の展開や先導的取組の促進など8つの方策を提示

具体の検討（R1）

歴史的資源を活かしたまちづくりガイドブック策定

- ・ 8つの取組方策を具体化することにより、地域の戦略的なまちづくりを誘導
 - ・ 地域や住民主体のまちづくりへの第一歩を促す
- 実践的な知見を得るため、三木市三木地区及び加西市北条地区を対象にモデル地区調査を実施

促進事業、普及啓発事業の創設を検討

- ・ ガイドブックで提示する事業や活動を後押しする支援制度（専門家派遣制度等）

行程表（R2以降は想定）

	H29	H30	R1	R2～
まちづくり審議会	まち方針重点プログラムの考え方を提示 3回審議		ガイドブックへの助言	
県	市町ヒアリング等を踏まえた重点プログラムの検討		ガイドブック作成	市町支援 (ガイドブックの運用、情報交換会等)
三木市	既存取組		モデル取組 (県市勉強会)	新たな展開
加西市	既存取組		モデル取組 (県市勉強会)	新たな展開

注：支援制度創設検討はR1年度に実施される。

モデル地区調査

H30年度：県市勉強会を通じたプレ調査

〔対象地区〕三木市三木地区、加西市北条地区

〔実施内容〕

R1年度以降の取組に向け、まちの現況把握や今後の取組の方向性を検討

（プログラム）

まちを知る	まちの歴史・なりたち、現状、地域資源について整理
取組を知る	現在の方向性やまちづくり活動について整理し、新たに必要な取組を抽出
作戦を練る	まちの将来像や取組のアイデア等を整理し、取組方策を検討

R1年度：県市勉強会とまちづくり実施主体等とのフィールドワークからなる調査

〔対象地区〕三木市三木地区、加西市北条地区

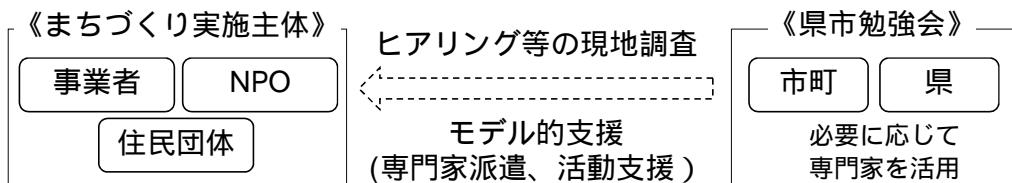
〔実施内容〕

H30年度のプレ調査を踏まえ、地区の状況に応じた取組を実施

三木地区	地区全体の将来像や目標等を共有した戦略的なまちづくりに向けて、市による計画の検討を開始
北条地区	ビジョンに基づき市がリノベーションした民間4施設の連携を図り、取組の継続・新たな展開に向けた方策を検討

まちづくりの継続に向け、次年度以降の取組も検討

〔取組スキーム〕



歴史的資源を活かしたまちづくり - 三木地区の現状

まちの歴史・なりたち

- ・別所氏がおさめた三木城を中心に町が発展。戦国時代に三木合戦で壊滅した町を羽柴秀吉が復興
- ・江戸時代初頭、城は廃城となったが、湯の山街道等の街道筋が交差する交通の要衝として繁栄
- ・18世紀半ばには町に多くの大工職人が集まり、その需要に応えるため、「三木金物」として金物産業が発展

まちの現状

- ・街道沿いを中心に町家等の歴史的建造物が存在し、歴史的景観を形成
- ・人口減少や高齢化は市の平均に比べて進行
H22-27人口増減率：地区 9.2%、市平均 4.7%
H27高齢化率：地区37.5%、市平均31.8%
- ・ナメラ商店街は約半数が空き店舗
- ・地区内の主要施設への観光客数は約16万人/年
- ・現在も町家で金物関係の仕事を行っている店が存在
地区内の金物関係の事業数約30(三木工業協同組合HPより)

まちづくりの状況

- ・市や民間による個別の取組は、地区全体の歴史・文化や地域資源を活かしたまちづくり計画(まちの将来像や取組方策の方向性等を定めたもの)に基づくものではなく、各々の立場や状況に応じて行われている
- ・市は歴史的景観を守るための取組、旧小河家・旧玉置家等を活用した観光・交流イベントの実施、旧三木城跡の活用に向けた整備など、関係課がそれぞれの目的で取り組んでいる
- ・民間ではまちづくり団体等による地域活性化に向けたイベント等が行われている

年度	取組内容
H22年度	・県景観条例に基づき、景観形成重要建造物として、稲見酒造及び三宅徳松商店を指定
H23年度	・市と神戸芸術工科大学が連携して学生が企画運営に協力し、三木の歴史を知るイベント「ミキシル」を開始
H24年度	・三木城下町まちづくり協議会がナメラ商店街周辺で地域活性化に向けたイベント「レトロジ」を開始
H27年度	・県景観条例に基づき、景観形成等住民協定として、三木市歴史街道芝町・平山地区を認定
H29年度	・市が旧小河家別邸を改修し、喫茶コーナー・観光用トイレ・ギャラリー等設置 ・市が「国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁整備基本計画」を策定し、整備を開始
H30年度	・市がH20に廃線となった旧三木鉄道の跡地に「別所ゆめ街道」として遊歩道等を整備

旧玉置家住宅・旧小河家別邸は一般公開されており、住民団体が管理・運営を実施

区域マップ

三木金物

三木城跡 (国指定史跡)

湯の山街道の町並み

三宅徳松商店

稲見酒造

芝町・平山地区

三寿×刃物製作所

旧玉置家住宅

黒田清右衛門商店

旧小河家別邸

三木市役所

三木城跡

200m

検討区域

地域資源

湯の山街道等の町並み 芝町・平山地区 (景観形成等住民協定区域)	街道筋に虫籠窓・卯建・舟板壁等が残る町家残り、町並みを形成 寺・町家・蔵・造り酒屋等が残る地区。県景観条例に基づく協定を締結し、景観づくりのルールを策定
旧玉置家住宅 (国登録文化財)	江戸時代後期に切手会所(銀行)として建築された歴史的建造物。一般公開され、住民団体が運営
旧小河家別邸 (国登録文化財)	明治時代後期に地元実業家が建築した、池のある庭を持つ歴史的建造物。一般公開され、住民団体が運営
三寿×刃物製作所 (国登録文化財)	ナメラ商店街の入口付近に立つ、明治時代に建築された歴史的建造物。現在も営業中
稲見酒造 (県景観形成重要建造物)	湯の山街道に面する酒蔵で、明治・昭和初期に建築された歴史的建造物。現在も営業中
三宅徳松商店 (県景観形成重要建造物)	湯の山街道に面する商家で、現在も金物店の事務所。街道に面する離れと門塀は建設時の伝統的意匠を維持
黒田清右衛門商店	黒田清右衛門商店は現存する金物の卸問屋としては市内最古
三木城跡(国指定史跡)	15世紀後半に別所氏が築城。戦国時代の羽柴秀吉による付城を築いた兵糧攻め(三木合戦)の舞台
三木金物	京都・大阪等へ出稼ぎに行った大工職人が持参した道具が評判となって知名度が向上。現在でも多くの金物を開発・生産

モデル地区調査の取組

課題

地区内での取組は、それぞれ個別で実施されているものが多く、各取組主体の持つまちづくりの方向性は必ずしも同じではないなど、まちづくりの大きな流れにつながっていない

取組の方向性

戦略的なまちづくりに向け、計画を作成し、関係者間で取組の方向性を共有
地域資源を連携させるストーリー化や複数の取組の連携方策を検討

モデル地区の取組内容

方向性：地区全体の計画策定に向け、市関係課が一堂に会し、将来像や目標・ストーリー等を検討
ねらい：市関係課での将来像・目標等の共有と連携した取組の誘導、地域資源のストーリー化等による取組強化
市検討体制：企画政策課、観光振興課、都市政策課、文化・スポーツ課

検討方針の決定

- ・昨年度は、市関係課が一堂に会し、まちの現況把握や今後の取組の方向性を検討し、計画づくりや地域資源のストーリー化等の必要性を確認
- ・今年度は、市関係課で将来像や目標等を検討して取組の方向性を共有
来年度以降、それを踏まえ住民等も含めた関係者間で共有できる計画の策定等を行う
- ・議論を深めるため、現時点で考えられるまちづくりの目標（案）を設定し、試行的取組を実施

取組にあたっての課題を抽出

- ・将来像や目標設定を行うに当たり、議論を深めるため、目標（案）を踏まえ、市関係課で考えられる取組を提示
- ・取組アイデア（案）の実施に関して出た以下の意見を踏まえ、課題を抽出
イベントの実施に当たっては、起点となる駐車場や拠点のネットワーク化に向けた道路等のインフラ整備や民間活力の導入が必要
町家の保存だけでなく活用する視点も必要
観光・交流の促進を目的とした取組を行うには、地域資源のストーリー化が有効

目標（案）

- ・交流人口（観光客）の増加
- ・中心市街地（旧市街地）の賑わいの創出
- ・地域への愛着や誇りの醸成

取組アイデア（案）

交流人口増加	謎解きまち歩きイベント、ナイトラン、ナイトウォーク、マルシェ、キャンドルナイト等
賑わいの創出	金物を活かした細工教室イベント、土産物売り場・案内所・大型バス駐車場・大看板の整備等
愛着・誇りの醸成	町家や寺社の文化財登録・保存、三木城本丸跡・二の丸跡の整備等

取組にあたっての課題

- ・観光・交流の起点となる駐車場、道路等のインフラ整備
- ・民間団体・企業等との連携
- ・観光地としてのシンボル
- ・町家の活用
- ・地域資源のストーリー化

課題解決に向けた取組の具体化（実施中）

- ・課題を踏まえ、取組の方向性を整理
- ・まちのブランディング化に向け、地域資源のストーリー（案）を作成
- ・将来像や目標設定を行うに当たっての議論を深めるとともに、まちづくりの第一歩を踏み出すため、試行的取組の実施を検討

取組の方向性（案）

細長いエリアに地域資源が点在しているため、ゾーンごとに交通施設や拠点の創出
空家所有者と活用希望者とのマッチング

ストーリー（案）

三木城・三木合戦、金物のまち、卯建・虫籠窓・漆喰塗の町家・町並み等が主な資源であることを確認
今後、将来像等について議論しつつブラッシュアップ

試行的取組（案）

ゾーンごとの拠点の創出及び地域資源のブラッシュアップに向け、住民団体とも連携し、町家を活用したイベントを試行

将来像・目標等の作成（予定）

- ・これまでの議論を踏まえ、将来像、目標、基本方針等を作成

これまでに得られた知見

1. 勉強会など出来ることから実施

関係者間の取組意識を醸成

- ・市関係課が一堂に会するまちづくりの勉強会を通じて、ゆるやかな情報共有や意見交換が可能となり、共通の課題認識のもとでの取組方策の検討が実現

2. ファシリテーターとなる専門家等を活用

市関係課が持つまちづくりのアイデアを明確化

- ・中立的立場である県や専門家（コンサルタント）がファシリテーター等として参加し議論が進展

3. 取組アイデアの共有

アイデアのブラッシュアップや課題の抽出を通じた実現可能性の向上

- ・取組アイデアを市関係課で共有することにより、アイデアのブラッシュアップや課題の抽出が可能となって、実現可能性が向上

4. ハードルを下げ柔軟に取組を実施

取組の実践を通じたモチベーション向上

- ・町家を活用したイベントの実施検討にあたって、設備投資を伴う本格的な事業の前に、実施主体のできる範囲で試行的に行い、「自分たちでもできる」といったモチベーションが向上

5. 気軽に楽しみながら企画

まちづくりの第一歩を動機付け

- ・町家を活用したイベントの実施検討にあたって、費用が確保できない場合であっても、実施主体が楽しめそうな企画を提案することで、まちづくりへの第一歩を動機付け

まちの歴史・なりたち

- 約1,300年前に創建された住吉神社や酒見寺の門前町として発展
- 戦国時代に地区近隣の小谷城主であった赤松氏が市場を開いたことから繁栄
- 江戸時代には交通の要衝として商家や宿屋が建ち並び、在郷町として発展

まちの現状

- 街道沿いを中心に社寺や町家等の歴史的建造物が存在し、歴史的景観を形成（景観条例に基づく歴史的景観形成区域）
- 歴史的建造物が多く残る中心部においては、人口減少や高齢化が市の平均に比べて進行
H22-27人口減少率：中心部 18.1%、市平均 7.7%
H27高齢化率：中心部40.4%、市平均30.4%
- 地区内とその周辺にこども園、小・中学校、大規模商業施設やホテル等が立地し、日常生活の利便性は高い

まちづくりの状況

- 地区の将来像や取組の方向性を定めた「北条旧市街地ビジョン」を策定済（H29.2～）
- 同ビジョンに基づき、市が空き家等をリノベーションして交流拠点・店舗等を4箇所整備し、民間事業者等が運営するなど取組が進捗

年度	取組内容
H20	住民団体「北条の宿はくらんかい実行委員会」が北条町旧市街地を舞台に、お寺や神社、空き家を活用したイベント「北条の宿はくらんかい」を開始（～H29）
H21	県景観条例に基づき、景観形成重要建造物として、高井家住宅を指定
H22	景観まちづくりの推進に向け、県市の協働により北条地区景観まちづくり学習会や景観まちづくり検討会等を開催して機運を醸成
H24	県景観条例に基づき、歴史的景観形成地区として、北条地区を指定
H27	県景観条例に基づき、景観形成重要建造物として、水田家住宅を指定 市がまちの現状把握を行う「北条旧市街地グランドデザイン検討調査(予備調査)」を実施
H28	市が地域資源を発掘するため「街並み魅力発掘調査」を実施 市が市民の意識醸成を図るため「町家暮らし再生塾」を実施 市がまちの将来像や基本方針、推進方策を定めた「北条旧市街地ビジョン」等を策定
H29	ビジョンに基づき、市が空き家をリノベーションし（～H30）、民間事業者等が運営
H30	民間事業者等が中心となって食や体験をテーマとしたイベント「北条conne」を開催

区域マップ



(参考:北条旧市街地ビジョンの概要)

将来像: 良好な住環境と町屋を活用した賑わいの実現

- しっとりとした住宅を中心とした町並み、日常生活に便利な店舗、交通アクセス
- 住民も利用できる情報、交流拠点の場がある
- エリアリノベーションによる北条スタイルの確立
- 来街者向けの町屋をリノベした個性ある店舗が散在
- 「歩いて楽しい、おもしろい」と思える
- 「健康」「食」「心」の豊かさを実感できる暮らし

目標: まちなか居住の増加～住民にとっても、移住者にとっても住みやすいまち～

基本方針: 担い手を育てる～人づくり～
暮らしを育てる～空間づくり～
北条スタイルを育てる～まちづくり～

地域資源

町家景観通りの町並み	旧街道沿いに卯建・虫籠窓等が残る町家が町並みを形成
寺町の町並み	住吉神社・酒見寺等の周辺は門前町の町並みを形成
高井家住宅・水田家住宅 (国登録文化財・県景観形成重要建造物)	江戸時代の伝統的な外観を残す町家
酒見寺(国指定文化財等)	奈良時代に行基が創建したと伝わり、境内には山門・多宝塔・本堂・鐘楼等が存在
住吉神社(県指定文化財等)	奈良時代に創建されたと伝わり、三棟並立の本殿が特徴。毎年春に開催される「節句祭」は播磨三大祭の一つ
五百羅漢(県指定文化財)	羅漢寺境内に400体以上の石仏が存在

市リノベーション施設

まちなか春陽堂	地域交流を目的とした施設。イベント開催や貸しスペースも実施
O Cha no Ma	日替わりのシェアキッチン。起業に向けたチャレンジの場
はりまのちっちゃな台所	播磨農高生プロデュースのレストラン。子育て世帯をターゲットとし、キッズスペースも配置
HOJO MACHI HOSTEL	1階をレンタルスペースやコワーキングスペース、2階を宿泊施設としたゲストハウス

モデル地区調査の取組

課題

市リノベ4施設は各々がまちづくりに貢献する取組を進めているが、事業者間の連携は個々の協力で留まっており、個々の施設の事業継続や新たなまちづくりの展開に向けた、4施設一体の協力・連携体制の構築にまで至っていない

取組の方向性

市リノベ4施設の運営事業者の協力・連携体制の構築

市リノベ4施設を中心とした新たな取組の実施に向けた具体的な検討

まちなか春陽堂

用途	地域交流広場 / 貸しスペース
規模	1階: 53.71㎡ 2階: 39.66㎡
費用負担	改修工事: 市負担 施設運営: 民間運営者負担
開設年月	2018年5月
開館時間	10~17時(不定休)
運営者	北条の宿まちなか活性化委員会
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・築200年以上の歴史を持つ町屋を改修した、地域の人や子供たちが集い世代を越えた交流ができる場 ・土間や和室を備えており、イベントや会議で利用したい場合、500円/半日で利用可能
運営状況	開設日数: 23日間/月 (R1.9) 近所の人がかつろぎ、お茶を飲んだりする居場所として過ごせる。料理教室や工作教室など貸しスペース・イベントスペースとして活用



HOJO MACHI HOSTEL

用途	ゲストハウス / レンタルスペース / コワーキングスペース
規模	1階: 67.63㎡ 2階: 63.60㎡
費用負担	改修工事: 市負担 その他、民間運営者がクラウドファンディングで159万円を資金調達 施設運営: 民間運営者負担
開設年月	2019年4月
開店時間	適宜対応
事業者	個人
施設概要	2階: 宿泊施設 (3部屋) 約4,000~5,000円/人程度 1階: 宿泊施設のロビー コワーキングスペース レンタルスペース イベントスペース
運営状況	開店日数: 10日間/月 (R1.9) 出張等で訪れた宿泊客がまちを知るきっかけの場としても機能



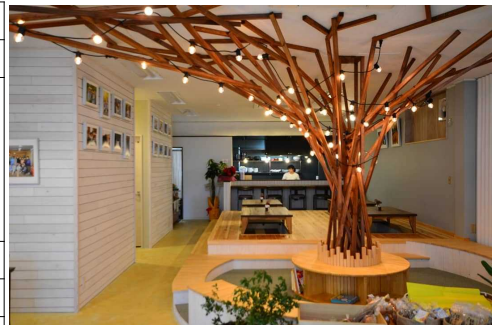
O Cha no Ma (おちゃのま)

用途	レンタルキッチン (飲食店)
規模	1階: 38.17㎡ 2階: 38.17㎡
費用負担	改修工事: 市負担 施設運営: 民間運営者負担
開設年月	2018年4月
開店時間	出店者によって異なる
事業者	合同会社ワンダーアースクリエイティブ、カワイデザインワークス 元加西市地域おこし協力隊の方が起業
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房を時間単位でレンタルでき、飲食業にチャレンジしたい方等が、実践的なお試し出店などに利用 ・地区外の出店者がまちを知るきっかけとなる場、地域の方との交流を通じたネットワーク形成を図る場としても活用
運営状況	開店日数: 20日間/月 (R1.9) 木・金は週一日の定期出店 その他の日は不定期の出店



はりまのちっちゃん台所

用途	飲食店 (蕎麦と野菜のお店)
規模	1階: 161.22㎡
費用負担	改修工事: 市負担 その他、民間運営者がクラウドファンディングで235.4万円を資金調達 施設運営: 民間運営者負担
開設年月	2019年6月
開店時間	9~16時半 (日曜定休)
事業者	株式会社シャルム
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・播磨農高生のプロデュース ・地元加西の農作物を使った、安全安心なメニューが売り ・主に子育て世帯をターゲットとしており、子供が過ごせるキッズスペースを設置 ・イベントスペースとしても利用 ・夜は別事業者が鳥料理屋を営業
運営状況	開店日数: 25日間/月 (R1.9)



モデル地区の取組内容

方向性：地域のニーズを踏まえた、市リノベ4施設の連携による新たな取組方策の検討
ねらい：民間事業者の主体的な活動継続により、新たな賑わいづくりの創出へと展開
市検討体制：きてみて住んで課、都市計画課

検討方針の決定

- ・昨年度は、関係課でまちの現況把握や今後の取組の方向性を検討。市リノベ4施設の運営者が主体となり、活動の継続や空き店舗等を活用した賑わいづくりの創出等を行う必要性を共有。
- ・今年度は、施設間連携の必要性を感じていた市リノベ4施設の運営者が主体的に連携方策を検討し、賑わいづくりの更なる創出を目指すことを決定
- ・県・市はその環境整備として、ニーズ調査の実施、情報の提供、ワークショップを通じた検討の場を提供

事業の運営状況と意向把握

- ・市リノベ4施設の運営者に対し、事業の運営状況、まちづくりへの思いや課題、今後の取組について確認
 ニーズ調査の対象は地区周辺に多い子育て層
 ニーズ調査の実施結果を踏まえ、市リノベ4施設が主体となって行うワークショップを開催

子育て世帯の意識調査

- ・子育て世帯（地区内の小学校PTA及びこども園未就園児の保護者）を対象に、まちに対する思いや市リノベ4施設に関する認知度や期待すること等について調査

ワークショップ(実施中)

- ・初の4施設の運営者が顔をそろえて議論する場
- ・施設の運営状況の報告、情報共有と取組に向けた意見交換
- ・今後、多く出たアイデアについてテーマの絞り込みを行い、新たな取組を検討

新たな取組方策を検討（予定）

運営者・意見

- ・加西市は住みよい町。車で生活することが当たり前になっている
- ・昔のように栄えることは無理だと思うので、今のニーズに合う、または若者にウケるような町にしていけないといけない
- ・北条は歴史のある地域なので、それを活かしつつ、現代のニーズに合うようなまちづくりを行うと良いと思う
- ・行事やイベントはターゲットを絞るのも大事だが、ある程度の来客数が必要
- ・4施設ができたことで、わずかではあるが商店街を通る人が増えたと感じる
- ・4施設間での情報共有、連携した取組などを考える場が必要
- ・若い女性が動けば子供や祖父母世代も動く。若い母親にとって、店舗に何が求められるのか知りたい

意識調査・意見

まちの評価	・高齢者が多い町。地域の人がやさしく、声をかけてくれる ・人通りも少なく、車で通り過ぎるだけの町 ・イオンや小中学校等が近くにあり、便利な町
市リノベ4施設	・子供と高齢者の居場所、世代間交流の場 ・子供を遊ばせることができ、かつ母親達がお喋りできる場所 ・駐車場の場所が分かりにくい

ワークショップ・意見（各施設でできる事・やりたい事）

まちなか春陽堂	・子供の滞在施設（児童館・寺子屋・駄菓子屋等）
O Cha no Ma	・地域の高齢者向けに、酒饅頭・こっぺぱん等昔ながらの食べ物を提供
はりまのちっちゃん台所	・キッズスペースを活用したイベント+食事の提供を実施 ・確保している駐車場が分かりにくさ改善（看板設置等）
HOJO MACHI HOSTEL	・チラシ設置やレンタサイクル実施等により、宿泊客を他施設へ誘導し、交流を促進
4施設共通	・4施設としてのイベント実施、金券・チラシ等による割引 ・北条旧市街地としてのお土産を開発

これまでに得られた知見

1. まち全体を見渡す視点を持つ

- ・近接施設の連携による取組検討が進展
- ・活用する町家を選定する際、できるだけ狭いエリアに集中させ、各施設が連携した取組検討が進展

2. ファシリテーターとなる専門家等を活用

- ・運営者が持つまちづくりのアイデアを明確化
- ・中立的立場である県や専門家（コンサルタント）がファシリテーター等として参加し議論が進展

3. 子育て世帯へのインタビューの実施

- ・直接会って意見交換を行うことで、取組検討に役立つ情報を取得
- ・直接会って意見交換を行うことにより、事業者の経歴やまちづくりに対する思い等を把握でき、取組に反映

4. まちの歴史や取組の現状を把握

- ・4者で連携の必要性を認識
- ・新たな取組方策を検討するに当たり、まちの歴史や人口・高齢化の状況、各施設の運営状況について情報共有を行うことにより、4者が連携した取組の必要性を認識

5. 楽しみや達成感が大切

- ・行事・イベントの継続
- ・イベントを実施するに当たっては、テーマや目標を持つことが必要。多くの客を呼ぶことだけに拘らないのも一つのやり方だが、日々の生活の中でイベントを運営するのは負担が大きいのので、ある程度の集客がないと、継続はできない

目的

篠山や出石など歴史的資源を活かしたまちづくりが進み、インバウンドや観光により元気になっている地域がある一方で、こうしたまちづくりがまだまだ進んでいない地域もみられる。

こうした地域においても、身近にある埋もれた歴史的資源を見出し、資源の魅力を高めて最大限に活かしたまちづくりに向けて、住民・自治会・民間事業者・行政職員など様々な立場の方がそれぞれできることから取り組むことで、地域の魅力と活力を向上させることができる。

そのため、まちづくりは自分たちの身近なところにあるという気付き、まちづくりの取組を促す動機付け、具体のまちづくりの後押しに加え、取組が進んでいるまちづくりの更なる進展につなげるガイドブックを作成する。

特色

- ①まちへの思いを持つことがまちづくりの始まりであるという**まちづくりの「気付き」を提示**
- ②まちづくりに躊躇している人への動機付けのため、気軽に楽しみハードルを感じさせない**まちづくりの「きっかけ」を提示**
- ③まちづくりをやってみたい人へ具体の取組を後押しするため、地域の課題等の視点から、簡単に取り組める**まちづくりの「第一歩」を提示**
- ④まちづくりにもう一步踏み込んで取り組みたい人へ各々の実情に応じた取組を促すため、実践的な**まちづくりの「すすめ方」を提示**
- ⑤「**身近にある、ちょっとした、埋もれた**」地域資源をキラリと光らせ、最大限活用するまちづくりを提示
- ⑥多様なまちづくりを誘導するため、兵庫五国の地域特性を活かした**先進的な取組**を分かりやすく提示

まちづくりの「気づき」

「このまちではここが不便だ」…例：近くに近所の人が集まれる集会所がない
 「こんなものがほしい」…例：近くに子連れでもゆっくりランチできるお店がほしい
 「このまちのこの問題が気になる」…例：空き家が増えて夜道を歩くのが不安だ
 上記のような思いを持つということは、本当は「こんな暮らしをしたい」「このまちを住み良くしたい」などまちへの「思い」を持つということであることから、その時点ですでにまちづくりは始まっているというまちづくりへの「気づき」を提示

まちづくりの「きっかけ」

苦手・難しい・余裕がない等を理由にまちづくりを躊躇している人に対し、まちづくりの「きっかけ」は人とつながること、気軽に楽しむことを提示

- 物語でまちづくりの「きっかけ」を動機付け
- 気軽に楽しむことから始まったまちづくりを紹介

まちづくりの「第一歩」

① 地域課題と向き合う

現在の地域の課題は何か、将来どのようなまちにしたいのかなど、目標ごとにまちづくりの「第一歩」を提示

目標	愛着や誇りのあるまちにしたい	生活の質を豊かにしたい	移住、定住者を増やしたい	地域に訪れる人を増やしたい
具体の取組	レトロな町並みの修景や歴史的建物の改修により、まちの質を高め地域への愛着を育む	民家を改修し、コミュニティレストラン等を誘致し、子育て世帯が過ごせる空間を提供	地域の文化・風土を売りに、関係人口を拡大し、移住者・定住者を確保	地域資源やストーリーを活かした体感イベント等の実施により、交流人口を拡大
第一歩	シンボルになり得る町の歴史的建造物を巡る町歩きツアーを実施	子育て世帯への聞き取り調査や、アンケート調査を実施し、ニーズを把握	お試し居住に使えるような空き家を不動産業者と一緒にリストアップ	地域の特産品や祭など、地域の歴史や文化を知る勉強会を開催

② 地域資源を育む

ちょっとした地域資源等に注目しまちづくりの「第一歩」を提示

資源	ちょっとした地域資源	埋もれた地域資源	身近にある地域資源	複数の小さな地域資源
具体の取組	町家の改修等に合わせ、統一感のある町並みを形成	手つかずの城跡や武家屋敷等の改修・活用により城下町としてブランディング化	地域に古くから伝わる伝統行事等と連携したイベントを行い、相乗効果により来客数増加	共通する地域資源のストーリーを作ってネットワーク化し、来客を誘導
第一歩	地域に伝わる藍染めのれんを活用し、家の軒先にかけて統一感を演出	隠れた魅力を伝える、インスタ映えする城跡の写真をSNSで発信	地域の祭とタイミングを合わせてイベントを実施し、来客を誘導	地域資源のストーリー化に向け、まちの歴史を知る勉強会を開催

③ 誰でも始められる

まちづくりを始めようとする立場ごとにまちづくりの「第一歩」を提示。

立場	住民	民間事業者	行政
具体の取組	失われつつある歴史的町並みを守っていく活動を実施	空き家への若者世帯や起業を目指す人に入居者を増加	行政によるサポートのもと、民間主体による取組を進展
第一歩	まち歩きなどまちの魅力を発掘・再発見するイベントを実施	空き家活用に向け、地域の空き家情報を収集・整理	関係者や住民等に呼びかけ、勉強会やセミナーを開催

まちづくりの「すすめ方」

① どこからでも始められる

取組を「まちを知り将来像を描く」「まちづくりに取り組む」「取組を支える」の3つの視点でし、どこから始めてもよいことを提示

② こうやって取り組む

実際のまちづくりの取組手法を具体的に解説

視点	まちを知り将来像を描く	まちづくりに取り組む	取組を支える
取組項目	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの歴史やなりたち、強み・弱みを知る ・活用する地域資源をリストアップし共有 ・将来像や目標等を定めた計画を作成 ・官民連携や周辺地域との連携体制の構築に向け勉強会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物の保存 ・歴史的建造物を店舗や交流施設等として活用 ・地域の農産物を活用し新たな特産品を開発 ・新たな方法で資金調達 ・地域資源を活用したワークショップ、まち歩き、セミナー等 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路やサイン等の修景 ・交通・観光施設の整備 ・SNSや紙媒体等による情報発信 ・AR・VR等の技術を活用 ・先導的取組の普及啓発 ・まちづくりの担い手の育成、発掘、招致、ネットワーク化
記載内容	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目ごとに、「狙い・効果」「ステップ・内容・手法」「ポイント・コツ」「先進事例」を提示 		